 <b>Viet Nam</b>	学校名：新潟県立国際情報高等学校 氏名：馬場 隆史 [担当教科：地歴：公民]	● 実践教科等：現代社会 SGH 活動 ● 時間数 : 35 時間 ● 対象生徒 : 1 学年情報科学科 ● 対象人数 : 37 人×2 クラス
--	--	---

## 1 単元名

発展途上国の経済と南北問題

## 2 単元の目標

**ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度(国立教育政策研究所が例として示したもの)**

- ・ 持続可能な開発に関する価値観を育てるため、途上国の現状と格差を知る。
- ・ 体系的な思考力を得るため、「貿易ゲーム」を通じて、「格差解消のためにどのようなことをすれば良いか」ということを通じて思考力を付ける。
- ・ 現状から将来について考えることにより代替案の思考力及び批判力を育成する。
- ・ GDP などのデータを読み取ることによりデータや情報の分析能力を育成する
- ・ 「貿易ゲーム」を通じて、他者との協働することによりコミュニケーション能力を育む。
- ・ グループ活動を通じて、生徒それぞれがリーダーシップの向上を育む。

## 3 資質・能力育成に向けた授業づくりの視点(国立教育政策研究所・2014)

- |                         |                          |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 意味のある問いや課題で学びの文脈を造る   | 2 子供の多様な考えを引き出す          |
| 3 考えを深めるために対話のある活動を導入する | 4 考えるための教材を見極めて提供する      |
| 5 すべ・手立ては活動に埋め込むなど工夫する  | 6 子供が学び方を振り返り自覚する機会を提供する |
| 7 互いの考えを認め合い学び合う文化を創る   |                          |

## 4 単元の指導について

### (1)教材観

新潟県立国際情報高等学校は、平成27年度より、文部科学省より、スーパーグローバルハイスクール(以下、「SGH」とする。)に指定されている。これにより、本校は、教科横断型の活動に取り組んでいる。SGH 活動の目的は、「グローバル人材の育成とその人材の研究開発」にある。そのため、さまざまな教科がこの活動に関わっている。一般的な南北問題および途上国の格差の問題とともに、JICA教師海外研修で得てきたベトナムの現状を伝え、格差解決について思考させる授業を展開したい。そのため、個別具体的なベトナムでの教材は、生徒にとって十分その役割を果たせるものとする。

本単元におけるベトナムの具体的な事例は、二つの効果があると考えられる。一つは、ベトナムの現状を知る事である。自分の通っている学校の教員自ら行って得てきた教材は、生徒にとって説得力を持つものになると考える。とりわけ、インタビューで登場する現地ベトナム人の証言は、恐らく自分たちが出した答えと一致するものであり、生徒の自信となるものである。もう一つの効果は、ベトナムの事例を一般化して「南北問題」の解決に対する一定の答えを出せるという効果である。1つ事例を考えそこから一般化するという思考のプロセスは、ロジカル(論理的)思考力を付けるためのよい教材となる。以上のような効果が、「ベトナム」に関する教材から期待できると考える。

### (2)児童生徒観

前述の SGH 導入などの影響もあり、校内では積極的にアクティブラーニングを取り入れている。そのため、グループワークなど積極的な活動を展開してくれると期待している。

### (3)指導観

#### ① 教科書の資料等から身近な問題として考えさせる。

教科書の資料を見せるだけでは、自分の問題として考えることが難しい場合がある。そのため、私自らが得てきた教材を使い、興味関心を引く資料を提示したい。

#### ② グループワークにおける思考の深まり

「貿易ゲーム」や格差の問題をグループで共有することで、他者の考えを得る。それにより、自らの考えも深めるよう学習活動を進めさせたい。また、他者との協働によりコミュニケーション能力を育みたい。この「他者協働」によるコミュニケーション能力の育みは、本校 SGH 活動に期待される生徒の能力向上の一つである。

③ 思考の深まりを育む

問題を自分事としてとらえ、それによる解決策を考える過程で思考の深まりを育みたい。高等学校では、授業で扱う問題に関しては、得てして「一般化」した事象を扱うことが多い。これらの「一般化」は、一般的な事象を学ぶという利点がある反面、一つの事例に関して深く考えるということをしないということに陥る危険もある。一つの事例についての答え＝「ベトナム人の答え」をあげることでさらなる思考の深まりを育みたい。

5 評価規準

観点	関心・意欲	知識 理解	思考・判断・表現	技能等
評価規準	発展途上国や南北問題についての課題を考えることができる。	発展途上国についてどれだけ知識を持っているか。	「貿易ゲーム」に参加し、課題解決に取り組んでいるかどうか。	グラフ・表を正確に読み取り事ができる。
評価方法	・グループワークでの発言 ・ポートフォリオ(個人)	・定期考査	・グループワークでの発言 ・ポートフォリオ(個人)	・ポートフォリオ(個人)

6 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	発展途上国の経済と南北問題	・発展途上国の現状を理解する ・発展途上国の課題を理解する ・発展途上国と先進国の格差是正のための課題解決を考えることができる。	○南北問題の現実 ○途上国の現実(ベトナムの現状) ○「貿易ゲーム」 ○格差是正のために何ができるか。何をすべきか。 ○格差是正のために日本が行っていること ○まとめ
2	発展途上国の経済と南北問題		
3	国際協調と日本の役割	国際的な日本の役割を考える	1・2回の授業内容を踏まえて、日本の取り組みについて紹介する。
1～75	SGH の活動等	グローバル人材の育成	PBL(課題解決型学習)「魚沼学」

7 授業事例の紹介

小単元名【 南北問題の理解とその解消について 】

(1) 指導案

(ア)実施日時 11月10日(金)第1・2限

(イ)実施会場 多目的教室

(ウ)本時の目標

- ・開発途上国の現状を理解する。
- ・発展途上国と先進国の格差について、その課題についての解決策を考察できる。
- ・「貿易ゲーム」を通じて問題点を理解できる。
- ・格差是正のために何ができるか。何をすべきか考えることができる。
- ・格差是正のために日本が行っている国際協力について理解する。
- ・グループワークを通じて、他者と協働することにより、

(エ)指導のポイント

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

- ・途上国の現実と格差の課題を自分事として捉えさせられるか。
- ・それら格差の課題解決に向けてどれだけ思考を深められるか。
- ・そのため、評価として「最初(初期値)」と「最後(まとめ)」についてポートフォリオを作成させることが必要である。

以上が、この授業のポイントである。

(オ) 本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
5分	1 今日の授業の説明	ポートフォリオ「途上国の現状と課題」「発展途上国と先進国の格差」について、現在、分かっていること、考えていること	一斉	授業の最初(初期値)を図るため、正確にポートフォリオを記載させる。  グループ内で活動していない生徒がいないように促す。	以下、評価は「ポートフォリオ」を提出させ、それにより評価する。
15分	2 南北問題の現状を資料を通じて理解させる	「乳児死亡率」「ハンガーマップ」を見せ、「格差があること」を理解させる。	グループ		
20分	3 ベトナムの現状	ベトナムの現状を理解させる。			
3分	4「貿易ゲーム」ルール説明	先進国と発展途上国の格差を体験させる。	グループ		
15分	ゲーム				
5分	データの収集	ゲームのデータを収集し、分かったこと、感想を書き込む。	一斉		
10分	5 格差是正のために何ができるか。	格差是正のために何ができるかグループワークで考える。	グループ		
10分	6 格差是正のために日本が行っていること	日本が行っている国際協力について、ベトナムの事例を紹介する。	一斉		
6分	7 まとめ	①今日の授業で分かったことをまとめる ②今日の授業に「タイトル」を付ける ③最初の自分の考え等と比べてみる	一斉		

(2) 授業の振り返り

時間が不足しており、予定していたところまでたどり着くことが出来なかった。仮に、国際理解教育のみ年間通じて行うことが出来れば、もう少し生徒の活動や理解について時間をとりたいところである。しかし、限られた時数の中で行おうとすれば、1教科の中で行うことは、困難である。例えば、「現代社会」という教科の中で、「発展途上国」、「南北問題」、「格差」などの問題を扱う時間は、3時間である。今後は、教科横断型や本校の特徴である SGH(スーパーグローバルハイスクール)の活動などと結びつけて行う必要があると考える。

(3) 使用教材

- ・「2017年7月1日 国際協力機構(JICA) 東京国際センター 市民参加協力第一課 古賀聡子氏」によるプレゼンテーション資料
- ・GDPのデータ「IMF - World Economic Outlook Databases (2017年10月版)」より作成
- ・「学びシート」(1枚ポートフォリオ)

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

・IMF - World Economic Outlook Databases (2017 年 10 月版)

・ベトナムで撮ってきたインタビュービデオ

(4)参考資料等

- 『現代ベトナムを知るための60章』 今井昭夫・岩井美佐紀 明石書店  
 『ベトナムの現在』 吉田元夫 講談社現代新書  
 『カラー版 ベトナム戦争と平和』 石川文洋 岩波新書  
 『ベトナム戦争 誤算と誤解の戦場』 松岡 完 中公新書  
 『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法—新たな評価基準の創出に向けて』  
 西岡 加名恵 図書文化社  
 『教育評価の本質を問う 一枚ポートフォリオ評価 OPPA』  
 堀 哲夫 東洋館出版社  
 『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価 アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』  
 西岡 加名恵 (著・編集) 明治図書

8 単元を通じた児童生徒の反応/変化

生徒には、次のようなポートフォリオを記入させて変化を看取った。

JICA (国際協力機構) 教師海外研修 研究授業 「学びシート」

日 期 名 姓 \_\_\_\_\_

平成29年11月10日(金) 1・2限 現代社会 国際情報高等学校 多目的教室

0 南北問題、発展途上国・先進国との格差 などについて、思うところ、知っていることなど書いてみよう。箇条書きでもかまいません。

1 途上国の現状や格差などを見て、考えたこと、思ったことなどを書いてみよう。箇条書きでもかまいません

2 属領のベトナムの話を聞いて、考えたこと、思ったことなどを書いてみよう。箇条書きでもかまいません

3 貿易ゲームを終わって

①どうして、このような結果になったと思えますか。箇条書きでもかまいません

②どうすれば勝てるか=格差がなくなるのか。ゲームから考えてみよう。箇条書きでもかまいません

4 格差を是正するために何が出来るか。何をすべきか。考えたこと、思ったことなどを書いてみよう。

箇条書きでもかまいません

5 格差を是正のため、日本が行っていることを聞いて考えたこと、思ったことなどを書いてみよう。箇条書きでもかまいません

6 まとめ 考えたこと、思ったことなどを書いてみよう。箇条書きでもかまいません

①今日の授業で分かったことを書いてみよう。箇条書きでもかまいません

②最初の「自分」の感想・考えと比較して、変わったところ、考えが変わったところなどを書いてみよう。箇条書きでもかまいません

③今日の授業を一言で言うタイトルを付けるとうりですか。

そして、これらのデータを「テキストマイニング」(「<https://textmining.userlocal.jp/>」)にかけて、分析を行った。図の見方は、図1について、単語の大きさがその単語の数を表す。すなわち、「大」であれば、その単語が多く使われており、「小」であれば、その単語が少ないことを示す。図2について単語と単語のつながりを表している。線が太ければ太いほど、単語のつながりが強いということになる。

「0 南北問題、発展途上国、先進国との格差などについて、思うところ、知っていることなどを書いてみよう」

この段階が、いわゆる「初期値」である。ここからの変化をそれぞれ看取ってみた。

以下生徒の発展途上国に対するイメージ

環境のきれいさ 食べ物 ご飯 経済格差貧困資金が少ない 子どもが育たない 食べ物がいない  
 清潔でない 医療が発展していない 物がいないきれいな水がない 北はお金がある国が多い南はお金が少ない国が多い 発展途上国はアフリカというイメージ  
 先進国は、アメリカ、ヨーロッパ、東アジアのイメージ 北は先進国 南は発展途上国のイメージ



発展させるには 格差是正の鍵は教育にあり 世界の助け合い 平等な世界へ  
協力するって大切だな 世界を見てみると 未来のベトナムのために大切なこと 教育第一

図 1

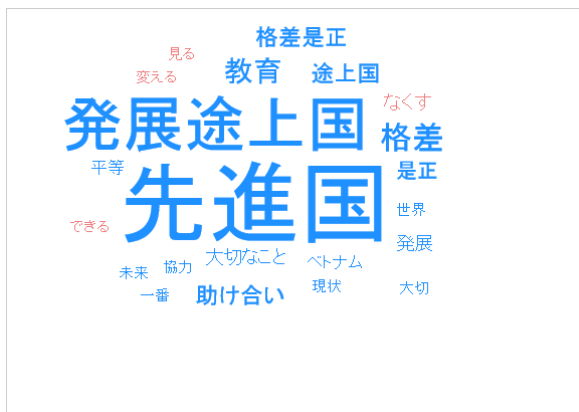
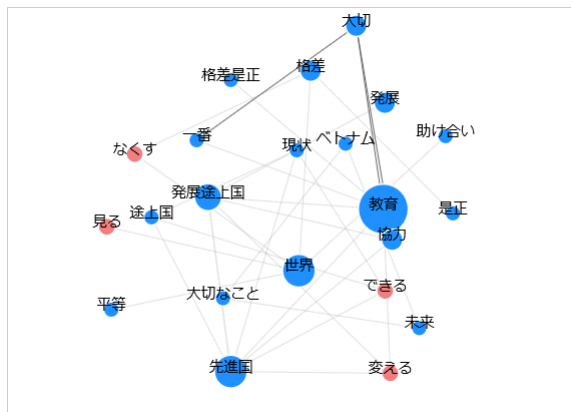


図 2



ここから分かることは、「先進国と発展途上国の格差は「教育」でうめることということ」ということが見て取れる。生徒達は、以上のようなことを授業を通じて考え、結論を出したものだと思う。

## 9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

### (1) 計画(P)

- ・単元の目標や授業のねらいを設定した。その際、「途上国との格差」および「格差是正」についてを設定した。
- ・学習指導計画を作成した。

### (2) 実施(D)

- ・授業を実施した。その際、「格差是正」や「格差の現状」となるような資料を使用した。
- ・アクティブラーニングを取り入れ、生徒に「考えさせる」ことを行った。
- ・ワークシート、ポートフォリオに「分かったこと」、「気づき」などを記入させた。

### (3) 検証(C)

- ・ワークシート、ポートフォリオの記入を基に評価を行った。

#### ① 成果

- ・ベトナムを含め、発展途上国と先進国の格差を理解することができた。
- ・ベトナムの現状を理解することができた。
- ・日本が発展途上国へどのような援助をしているか理解できた。
- ・青年海外協力隊の方の生き方を通じて、自らのキャリアや生き方を考えるきっかけとなった。
- ・ベトナムにおいては、発展するために「教育」が必要であるというインタビューを見て、生徒自らの現状など「内省」するきっかけとなった。

#### ② 課題

- ・生徒のパフォーマンス評価に対する明確な評価軸の構築。
- ・「内省」の評価と客観的評価の評価方法の構築

### (4) 改善(A)

- ・テキストマイニングの手法の導入
- ・相関関係を評価軸として入れてみる。
- ・指導計画を再構築する。

## 10 教師海外研修に参加して

インターネットの発達により、より「本物」が求められる時代となった。ネットに寄るのではなく、自ら持ってきた教材により授業を展開することが求められる時代となったと感じる。その観点から、この研修に参加させていただき、非常に有意義であったと感じる。心から、皆様に感謝申し上げます。